

# 医療・介護に関する国民意識調査

## － 速報版－

調査目的	日本の公的医療・介護保険や医療提供に対する国民の認識や具体的なニーズを広く把握する
調査対象	全国の20代～80代の男女 3,000人
調査手法	インターネット調査
実施時期	2026年1月

2026年6月  
健康保険組合連合会

連絡先:健康保険組合連合会  
総合企画室 社会保障研究グループ  
TEL 03-5990-2045

<b>I 調査結果概要</b>	…
<hr/>	
<b>II 主な調査結果</b>	
<hr/>	
<b>1. 医療保険制度の負担に関する現状認識</b>	
① 保険料の負担感について	… 3
<b>2. 医療・介護の負担のあり方</b>	
② 医療保険の給付と負担のあり方について	… 5
③ 医療費の財源について	… 6
④ 医療費・介護費の現役世代と高齢世代の今後の負担のあり方について	… 7
<b>3. 高齢者医療の負担のあり方</b>	
⑤ 高齢者の医療費負担における原則2割対象年齢の引き上げについて	… 9
⑥ 高齢者の医療費負担の現役世代並み(原則3割)への見直しについて	… 10
<b>4. 医療費のしくみや保険者の役割</b>	
⑦ 「子どもの受診傾向」と「子ども医療費助成」について	… 12
⑧ 保険者が提供するサービスについて	… 13

※本資料の図表の数値は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。  
※3ページ以降に記載している「Q.」は、設問を一部抜粋または要約したものです。実際の設問とは異なります。

# I 調査結果概要

- 保険料負担については、「非常に重い」「やや重い」が全体で6割超。(P.3)
- 今後増加する医療費の賄い方では、相互扶助を目的とした保険料よりも、自己負担(患者本人の窓口負担)を選ぶ傾向がみられる。(P.6)
- 今後の負担のあり方では、「高齢者の負担増はやむを得ない」が37.1%で最も多く、現役世代の負担増容認(18.1%)を大きく上回る。また、高齢者自身(75歳以上)も40.0%が負担増はやむを得ないと回答。(P.7)
- 医療保険制度の見直しについては、下記のとおり「ポスト2025」健康保険組合の提言に沿う内容の回答が多く、負担の公平性確保や給付範囲の見直しに一定の理解が得られていることが示唆される。ただし、世代によって受け止めが分かれ、特に高齢者層では賛否が割れている。(p.9~10)
- 一方で、制度の見直し等について「わからない」「知らない」と回答した人が多かった。企業(事業主)と連携して、健康教育・社内研修等の場を活用して、制度理解の機会を増やしていくことが求められる。また、若年層については、学校教育等も含めた周知も検討する必要がある。
- 保険者サービスについては、健康保険組合の加入者はサービスに対する満足度が相対的に高く、多様なサービスを受けている点も明らかとなった。(P.13)

《健康保険組合が提言している見直し項目に関する主な結果》

## 自己負担2割の 年齢区分の引き上げ

賛成 35.7% > 反対 22.5%

高齢者の自己負担2割の対象年齢を5歳引き上げる改革案については、賛成が35.7%と反対の22.5%を大きく上回る。(P.9)

## 高齢者自己負担割合 原則3割への見直し

賛成 34.2% > 反対 29.9%

将来的に高齢者の自己負担割合を現役世代と同じ原則3割とする改革案については、賛成が34.2%と反対の29.9%を上回る。(P.10)

## 給付の適正化・負担増の抑制

支持 40.0%

現役世代を中心に、給付を絞り込み、負担増を抑えるべきとする回答が4割。(P.5)

## Ⅱ 主な調査結果

### Ⅰ. 医療保険制度の負担に関する現状認識

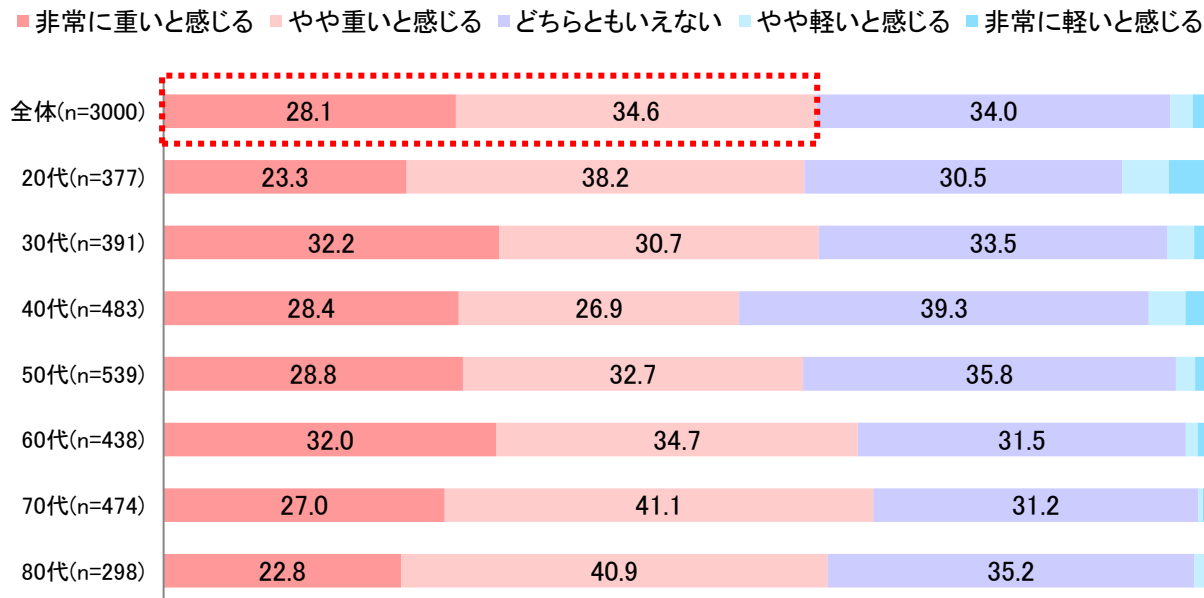
## Ⅱ 主な調査結果 — ①保険料の負担感について

全世代で保険料負担が「重い」。これ以上の「保険料の更なる負担増」は限界



Q. 2022年度のサラリーマンなどが加入する被用者保険における被保険者1人当たり平均保険料は月額37,435円※、国民健康保険における1世帯当たり平均保険料は月額11,333円です。あなたはこの負担をどのように感じますか。(単数回答)※被用者保険は事業主負担を含みます。

図1:保険料の負担感



調査結果:

- 保険料の水準について「非常に重い」「やや重い」と感じる人は62.7%にのぼり、全世代で「重い(計)」が多い。
- 一方で、30・60代は「非常に重い」が相対的に高く、70・80代は「やや重い」が厚いなど、年代ごとに回答の出方に違いがみられる。

## Ⅱ 主な調査結果

### 2. 医療・介護の負担のあり方

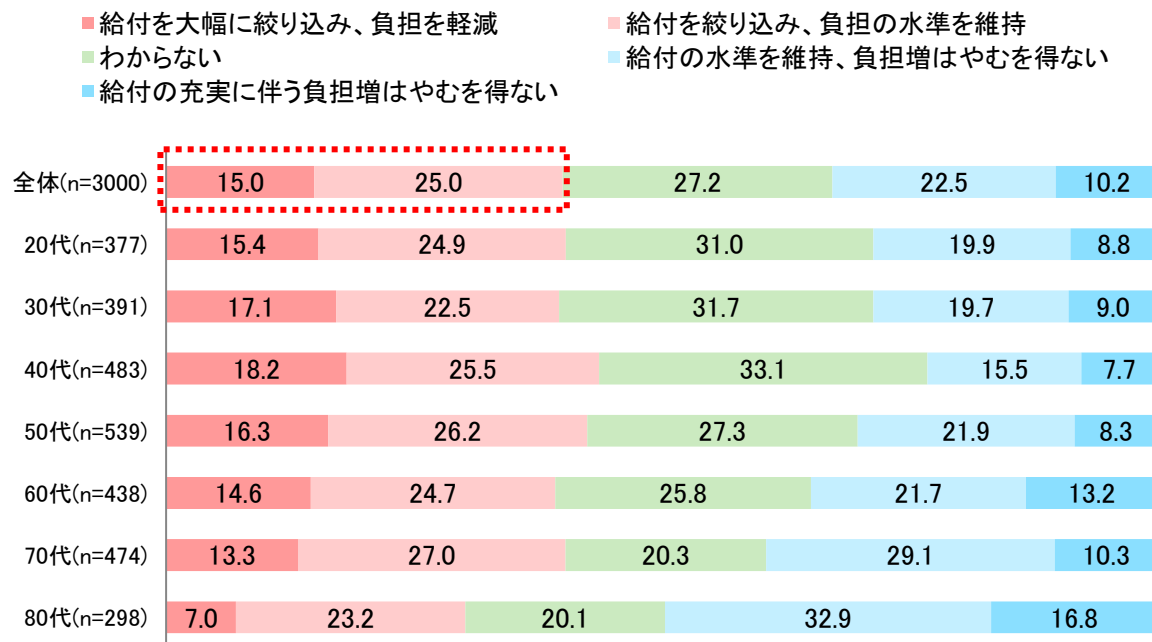
## II 主な調査結果 — ②医療保険の給付と負担のあり方について

### 給付は、「維持」より「見直し」が多数派。求められる保険給付範囲の適正化



Q. 今後も、少子高齢化が進む中で、医療費が増加する一方、その費用の支え手は減ることが見込まれます。今後の医療保険の給付と負担のあり方について、あなたはどのように考えますか。(単数回答)

図2:今後の給付と負担のあり方



#### 調査結果:

- 医療保険の給付（保険適用範囲）と負担（保険料・自己負担）のあり方については、「給付を絞り、負担増を抑える」とする回答が40.0%に達し、給付については維持よりも見直しを求める傾向が示されている。
- また、現役世代では負担抑制（給付の絞り込み）が比較的多い一方、70・80代では給付維持・充実のための負担増容認が比較的多い傾向がみられる。

## II 主な調査結果 — ③医療費の財源について

「自己負担」の選択が最多。「わからない」拡大が示す情報不足



Q. 今後、増加する医療費を賄う方法として、あなたはどの方法を中心とするのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものをお選びください。(単数回答)

図3: 今後の医療費の賄い方

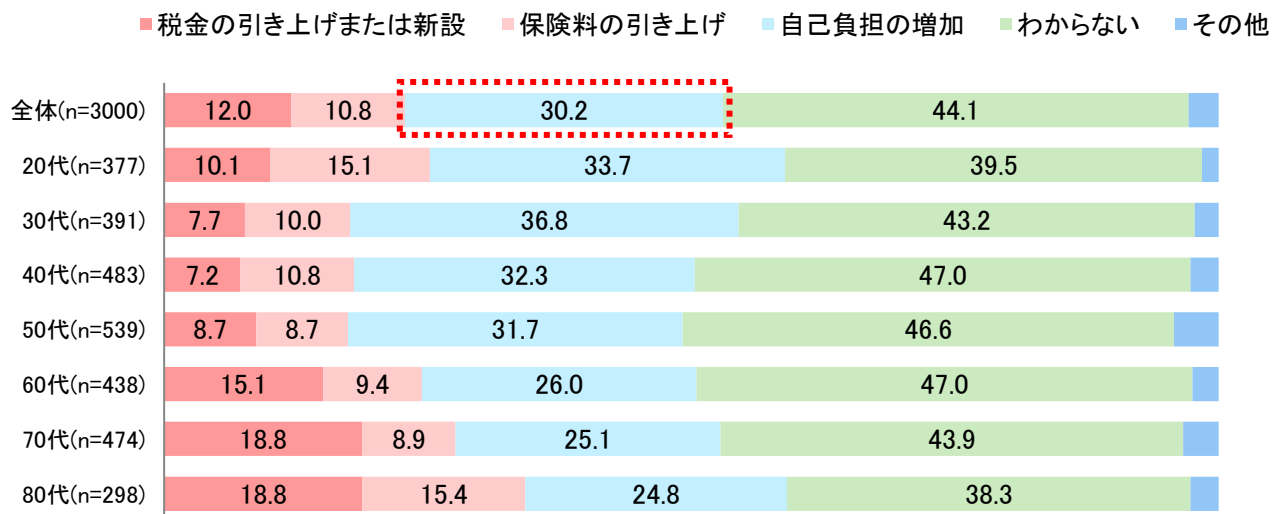
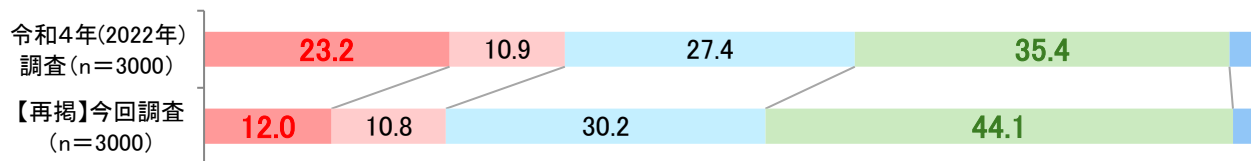


図4: 過去調査比較 今後の医療費の賄い方



調査結果:

- 医療費の賄い方では、「わからない」を除く) **具体策の中で「自己負担の増加」が最も多く(30.2%)**、一方で「わからない」が44.1%と最大。
- 過去調査と比べると**「税の引き上げ・新設」は大きく低下**しており、追加の税負担を避けたい意識が強まっている。
- 財源への理解不足も考えられ、**「わからない」が4割超と、過去調査からも大幅に増加**している。

## Ⅱ 主な調査結果 — ④医療費・介護費の現役世代と高齢世代の今後の負担のあり方について

### 全年代で高齢者負担増の賛成多数

### 現役世代の負担増を求める声は少数派



Q. 少子高齢化がいつそう進むため、1人の高齢者を支える現役世代の人数は、今後も減り続けることが予想されます。医療費や介護費の現役世代と高齢世代との負担の今後のあり方について、あなたの考えに最も近いものをお選び下さい。(単数回答)

図5：今後の医療費・介護費の負担配分

■ 高齢者の負担増はやむを得ない ■ わからない ■ 高齢者負担増は難しく、現役負担増はやむを得ない

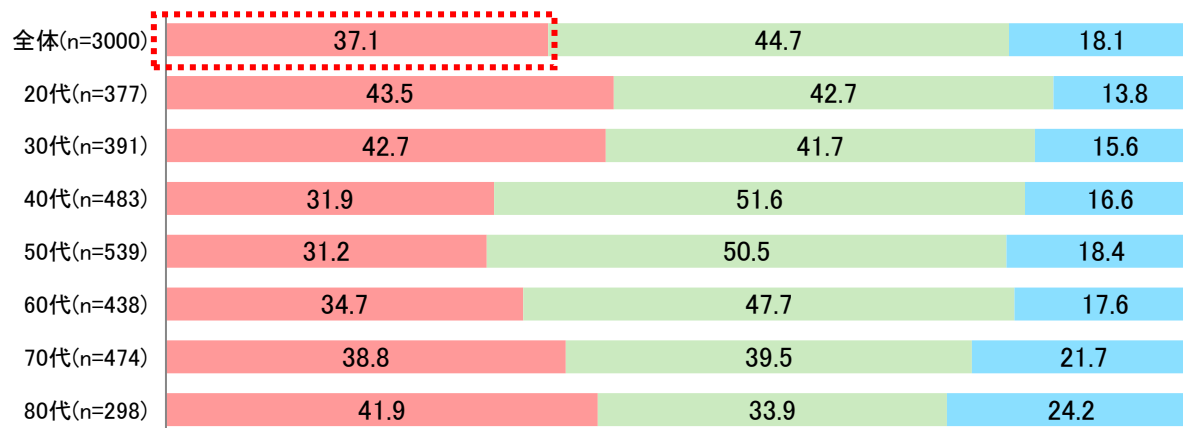
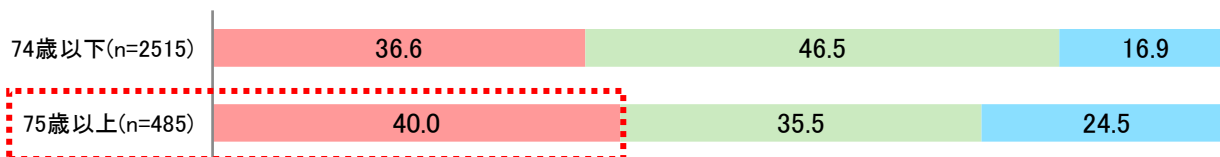


図6：世代別 今後の医療費・介護費の負担配分



### 調査結果：

- 現役世代と高齢世代の負担のあり方については、「**高齢者の負担増はやむを得ない**」(37.1%)が、「**高齢者負担増は難しく、現役負担増はやむを得ない**」(18.1%)を大きく上回る。
- 一方で、「**わからない**」は44%超と高い水準。
- **75歳以上でも同様の傾向がみられ、40.0%が高齢者の負担増はやむを得ないと回答している。**

## Ⅱ 主な調査結果

### 3. 高齢者医療の負担のあり方

## Ⅱ 主な調査結果 — ⑤高齢者の医療費負担における原則2割対象年齢の引き上げについて

### 対象年齢引き上げの賛成多数。70代は賛否拮抗

### 丁寧な説明による理解形成が課題



Q.高齢者の健康状態や就業状態は過去と比べて改善されており、世代間の負担の公平性の観点に立って見直すべきだという議論もあります。例えば、現在、69歳までの方は3割負担、70歳から74歳までの方は原則2割負担ですが、その対象年齢を5歳引き上げるとい考え方について、あなたはどのように考えますか。(単数回答)

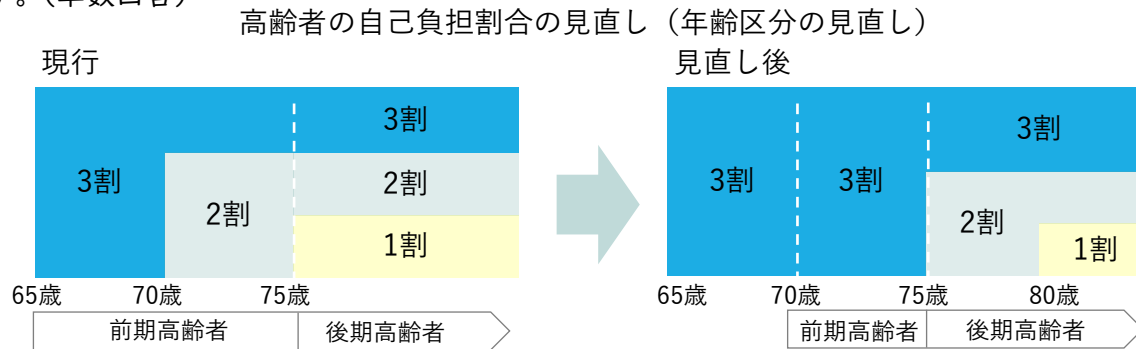
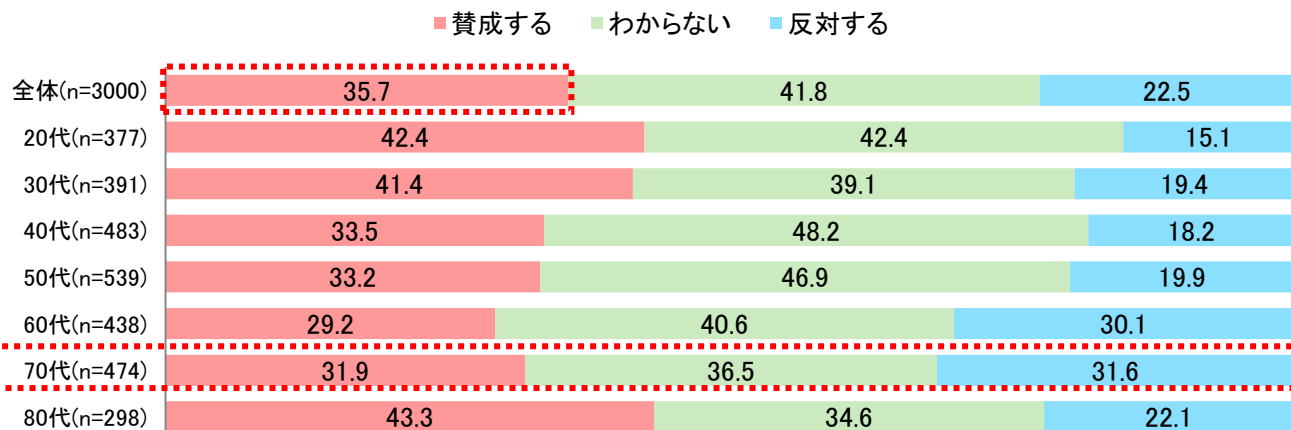


図7: 自己負担原則2割の年齢区分の見直しについて



### 調査結果:

- 「ポスト2025」健康保険組合の提言で示した、自己負担原則2割の年齢区分の見直しについては、賛成が35.7%と反対の22.5%を大きく上回る。
- しかし、影響を最も受ける70代では賛否は拮抗している。

## Ⅱ 主な調査結果 — ⑥高齢者の医療費負担の現役世代並み(原則3割)への見直しについて

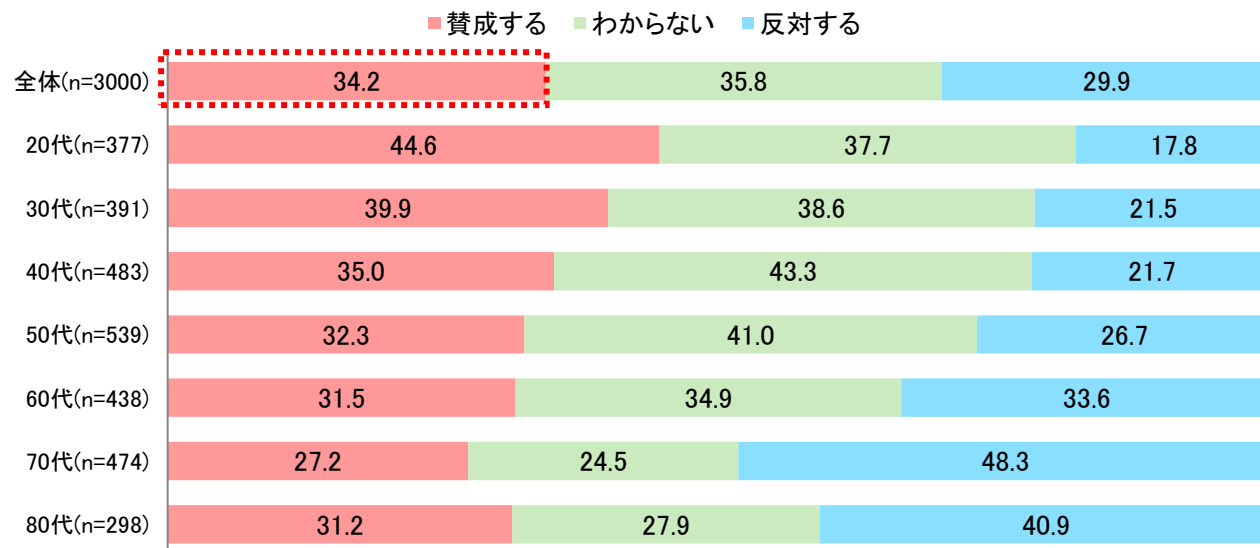
現役世代での賛成多数と、高齢世代の慎重姿勢

理解形成には低所得者への配慮等の前提の明確化が必要



Q.高齢者の医療費の自己負担割合を、将来的に現役世代と同じ原則3割に見直すことについて、あなたはどう考えますか。低所得者に対する配慮や高額療養費制度による負担の軽減は行われるものとします。(単数回答)

図8：自己負担原則3割について



調査結果:

- 将来的に高齢者の自己負担割合を原則3割に見直す案について、賛成34.2%が反対29.9%を上回る。
- 40代以下では賛成が反対を大きく上回り、若い世代ほど賛成が多い傾向がみられる。
- 一方、60代以上では「わからない」と「反対」が約7割を占め、慎重姿勢が目立つ。

## Ⅱ 主な調査結果

### 4. 医療費のしくみや保険者の役割

## Ⅱ 主な調査結果 — ⑦「子どもの受診傾向」と「子ども医療費助成」について

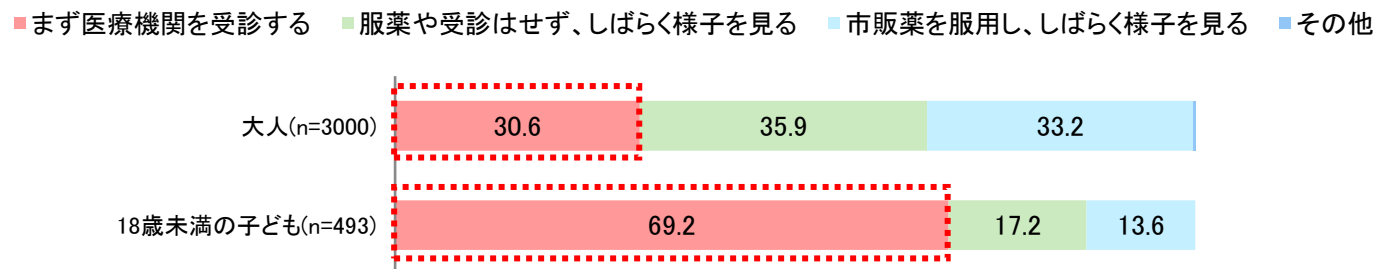
### 軽度の体調不良時の受診行動、親と子に差

### 自治体の助成制度を含めた子ども医療費の構造の見える化が課題



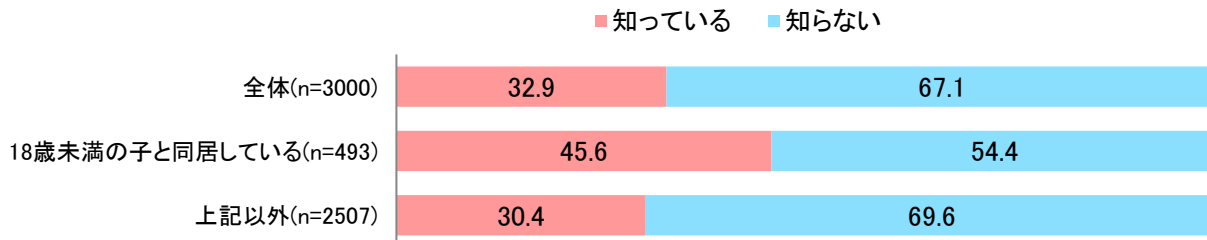
Q.ご自身は37.5度程度の発熱など、軽度の体調不良の際、主にどのような対応をしていますか。同居している18歳未満の子どもがいる場合は、子どもが身体の不調を訴えた（または不調に見える）際についてもお答えください。（単数回答）

図9：軽度の体調不良時の対応



Q.自治体が行っている子どもの医療費助成制度は、自治体の負担は自己負担部分のみであり、残りの医療費は、保険料などを財源として、医療保険で負担しています。このように、自治体の助成制度があっても、子どもの医療費の多くは加入者が支払っている保険料で賄われていることを知っていますか。（単数回答）

図10：子ども医療費の費用負担構造について



### 調査結果：

- 軽度の体調不良で「まず医療機関を受診する」の割合は、大人30.6%に対し、18歳未満は69.2%と、2倍以上の差がみられる。
- 子どもの受診傾向に影響していると考えられる自治体の子ども医療費助成について、「自己負担が無料でも、費用の多くが加入者の保険料で賄われている」点の認知は不十分で、全体で「知らない」が67.1%（約7割）。子育て世帯でも54.4%が「知らない」。

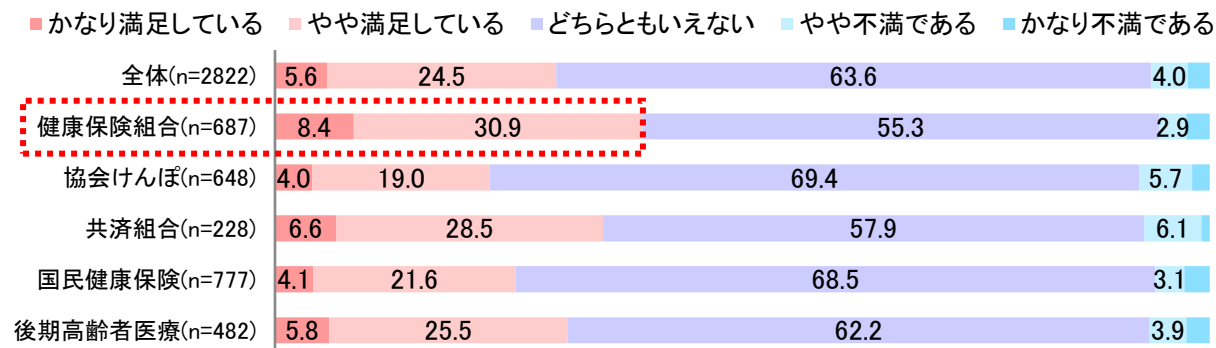
## Ⅱ 主な調査結果 — ⑧保険者が提供するサービスについて

### 健康保険組合加入者の満足度は相対的に高水準 多様なサービス提供が強み



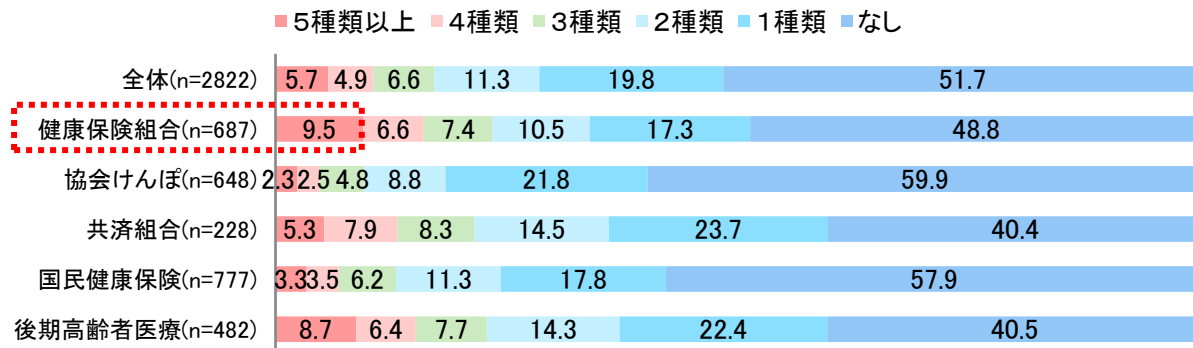
Q.あなたが加入している医療保険者が提供しているサービスについてどのように感じますか。(単数回答)

図11：サービスの満足度



▼医療保険者から受けているサービス(メールによる情報提供、広報誌、医療機関情報の提供、がん検診、予防接種の補助、医療費通知等各種サービスなど)の数を集計すると

図12：受けているサービスの種類



※加入医療保険について「船員保険」、「日雇保険」、「その他(生活保護による医療扶助など)」を選択した回答者、加入している保険者が不詳な回答者を除いて集計。

#### 調査結果:

- 医療保険者のサービスに対する満足度は、「健康保険組合」加入者で「かなり満足+やや満足」39.3%と、他の保険者より高い水準。
- 一方で、「どちらともいえない」が半数以上を占めており、サービス向上や周知の余地があることが示唆される。
- 受けているサービスの種類についても、「健康保険組合」加入者の約1割(9.5%)が「5種類以上」と回答し、相対的に多い傾向がみられる。